

令和 6 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立 久留米筑水 高等学校

スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)	「地域や社会で必要とされるスペシャリストの育成」 ～「Only One(唯一の学校)」から「Special One(特別の学校)へ」～ 「農業」「福祉」「調理」の分野における知識・技術の習得をはじめ、心豊かな職業人としての使命感や誇りを持つスペシャリストの育成に加え、目まぐるしい社会に対応し得る人材を育成します。	
スクール・ポリシー (三つの方針)	グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)	○基本的な生活習慣を確立し、基礎学力の向上を図ることで、将来を切り拓く力 ○社会における自己の役割を認識し、自他を尊重する態度 ○課題解決に向けて前向きに挑戦し、主体的に取り組む力(チャレンジ力) ○「農業」「福祉」「調理」の専門力、並びに地域を大切に、地域に貢献できる能力と態度
	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)	○基礎学力の定着を図るため各専門分野の基礎から応用に向けた段階的学習カリキュラムの編成 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業時にグループワーク、討議、発表等の導入 ○生徒一人一人を大切に、個別最適な学びの実現に向けた少人数や習熟度別授業の導入とICT活用 ○自ら課題を発見し解決していく資質・能力の育成
	アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)	○協働と奉仕の精神に富み、人権を尊重する心豊かな人 ○社会の変化に対応できる柔軟な思考を持っている人 ○学習活動、学校行事、部活動、探究活動などに意欲的に取り組む人 ○「農業」「福祉」「調理」の各分野の知識・技術の習得や資格取得に対して意欲的に取り組む人 ○地域や社会に貢献し、人の役に立ちたいという気持ちを持つ公共心あふれる人

学校運営計画(4月)			
学校運営方針			評価 (総合)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
○成果 1 ICT機器やオンライン学習支援 ツールを活用した個別最適な学び により教育活動が充実した。 2 計画的な職員研修会の実施に より特別な配慮を要する生徒への 理解ときめ細かな生徒指導を実践 できた。 ○課題 1 社会的自立の基盤となる確かな 学力の育成と実践力の向上 2 幅広い人材育成とキャリア教育 の充実 3 他者理解と対人コミュニケーション 能力の育成	学習環境を整え、基礎学力の定着と自ら学 ぶ力の学習を図り、社会的自立の基盤となる 確かな学力を育成するとともに、実践力を向 上させる。	基礎学力の定着と学習意欲及び実践力の向上に向け、ICT機器やオンライン学習支援ツールを活用した多様な学びにより、主体的で、個に応じたきめ 細かな指導を行う。	A
		1時間の授業を大切に。生徒理解に基づいた観点別学習目標の設定と指導により、対話的で深い学びと評価の場面を明確化した授業を行い、確か な学力の育成を図る。	
		各学科等での学びの特色を生かし、資格取得やコンテスト・各種競技等へ向けた指導を充実し、キャリアアップを図る。	
		動画授業コンテンツ、Classroomでの課題指示などオンライン学習環境を整備し、災害や感染症等で登校できない場合でも生徒の学びを止めない。	
		3年間の継続的・組織的な指導体制のもと、効果的な現場実習や外部人材の活用により生徒の進路意識を高揚させ技能を習得させる。	
	農業・福祉・調理の専門分野におけるスペ シャリストの育成に加え、社会の状況を踏ま えた幅広い人材を育成するため、キャリア教 育の充実を図り、希望進路を実現する。	各学科において、将来のスペシャリストにふさわしい専門知識と技能を身につけさせつつ、幅広い職種に対応できる勤労観と職業観を育成する。	
		生徒の希望進路決定100%の実現に向け、企業及び大学等との連携を通して、生徒の興味・関心及び適正を重視した進路指導を行う。	
		挨拶、時間厳守、礼儀作法、整理・整頓、頭髮・服装、スマートフォン等のマナーアップ指導を全職員で徹底する。	
		部活動を豊かな学校生活を体験する場として位置づけ、自主的・自発的加入を促進し、体力や技能の向上に加え責任感や連帯感を涵養する。	
		全教科・領域、学校行事、ボランティア活動等において、対話的な活動を位置づけ、自尊感情の育成、自律心と相手を思いやるコミュニケーション力の育 成を図り、いじめの撲滅と人権意識を高揚させる。	
	対人コミュニケーション能力の育成と規範意 識の高揚を図るとともに、自律心と自分と異 なる他者への理解と思いやりのある心豊か な人間を育成する。	担任、学年、学科相互や、外部機関との情報共有を図り、SC、SSWや保護者等との連携した教育相談体制のもと、中途退学者を減らす。	

様式3

自己評価								学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務課	教員の授業改善を図り、生徒の社会的自立の基盤となる確かな学力の育成と社会で柔軟に対応できる力の向上のための取組を実践する。	ICT機器を用いて、効率的・効果的な授業実践を図る。また、一人一台タブレットの活用で「個別最適化」の学習の実現を図る。	図書研修課や広報情報課のアンケート集約の結果を授業改善や入試対策に活用させてもらっている。正確な分析をし、適切な予測に繋げていっているつもりである。	A	A	A	・年々、教員のICT機器を用いた効果的・効率的な授業実践や一人一台タブレットを活用した「個別最適化」「協働的」な学習の実現の割合は高くなっている。更に進めていく。 ・観点別評価の規定のみならず、教務規定の改善すべき点を積極的に行っていく。	A	オフラインやオンラインによる生徒の活動で困り感はないのか。今後もICT機器やタブレットを活用した授業を進めてもらいたい。デジタル採点の説明と現状を知りたい。
		「主体的・対話的で深い学び」の実践によって、学習意欲の向上や思考力・判断力・表現力の向上、学習内容を定着させ、社会で柔軟に対応できる力を育成させる。		A					
		令和6年度で完全実施となる新教育課程に伴う観点別評価において、今までの実践や他校の取組状況を比較し、より良い教務規定を作る。		B					
	学力向上・授業改善のための学習環境の整備を図る。	情報処理室・視聴覚教室等・電子黒板等、教育設備の整備と有効活用を図る。	農業の学科選択希望調査は、教務課主導でアンケートを行い、保護者の了承が必要な所以外は、タブレットで効率的に集約した。年々1科に集中が強まっている。	A	A	A	・ICT環境は整っており、教員も技量が高まっている。また、有効活用は十分にできている。特に、デジタル採点は、ほとんどの教員が実践するようになっている。今後も新しいものを導入していく仕掛けを他の分掌の協力を得て作っていききたい。	A	
		教科担当者会等において、生徒情報等を共有し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」意識した授業改善につなげる。		A					
		定期考査や観点別評価の実践におけるサポートを各学年において実践する。		A					
企画庶務課	各部・各課との連絡調整を行い、円滑な校務運営に努める。	企画庶務主催の各行事は、組織的に連絡調整を行い円滑に実施する。	学校要覧に掲載する生徒の出身市、通学状況、通学時間、通学方法については、学年別にみても大きな変化はなかった。	B	A	A	・行事企画については、各課や学科、学年と連絡調整を進めることができた。しかし業務内容が重なり円滑に進まない事もあったため、着手する時期を早め、係の分担を効率的に行うなど更に計画的に進めたい。	A	ホームページの内容充実を常に図り、学校の魅力を発信してもらいたい。
		学校要覧、新入生のしおり等を各課や事務室と連携し円滑に作成する。		A					
		課内の連携と強化に努める。		A					
	広報活動の推進に努め、本校教育内容のPRに努める。	筑水通信を年4回程度、ホームページへ掲載する。	令和6年度全国高等学校PTA連合会アンケートでは、PTA活動の見直しを行いスリム化（特に事業内容）を実施している学校は42％という結果が出ている。今後の参考にしたい。	B	A	A	・筑水通信を定期的に掲載することができなかった。HPでの学校の配信も活発になってきていることから、今後筑水通信の在り方から再考したい。 ・PTAとの連携については係を中心に円滑に進み、PTA活動の活性化に繋がった。来年度は総会のバーベキューなど、スリム化も検討したい。また、筑後地区PTAの発表を控えているので協力して進めたい。	A	
		PTAと連携し、地域に根ざした教育活動を推進する。		A					
		PTA活動の理解を深め、より多くの保護者へ発信する。		A					
生徒指導課	自己指導能力の育成	規範意識の醸成や社会的自立のための適切な指導を行う。	学校生活アンケートを年に2回実施し、生徒の苦悩や悩み等に寄り添うことができた。	A	A	A	学校生活アンケート後に生徒全員との面談を実施し、その中で特に気になる生徒に関しては教育相談委員会において情報共有や今後の対応等について協議した。次年度も一人一人に丁寧に寄り添う指導を心掛けていきたい。	A	生徒会を中心とした生徒主体の活動を充実させてほしい。文化祭に向けた取組の充実を期待している。
		職員間の情報共有をスムーズに行い、問題行動の未然防止と早期発見に努める。		B					
		体育祭の成功に向けて、リーダーの育成と計画・運営の協力体制を構築する。		A					
	安全安心な学校生活づくり	SNSやスマートフォンの正しい利用方法等の情報モラル教育を充実させる。	毎月のいじめアンケートや学期末のチェックリストをとおして、未然防止・早期発見に努めた。	B	A	A	毎月のいじめ防止対策委員会において、アンケート結果をもとに今後の対応や生徒への指導方法、保護者との連携等について丁寧に協議を重ねた。次年度もいじめの未然防止・早期発見・即対応を心掛けていく。	A	
		交通安全教室を実施し、生徒が主体的に交通マナーを遵守し、事故を撲滅する。		A					
		全職員で学校いじめ防止基本方針を理解し、未然防止・早期発見・防止に取り組む。		A					

様式3

保健課	生徒の健康増進と安全に対する意識の醸成、学校環境の整備と保全を心がけ美しい学校作りを目指す。	健康と安全に関する啓発活動の一環として、保健だよりの充実を図る。	・健康調査の実施で、各行事にスムーズに参加することができた。 ・掃除用具調査を実施することで、過不足なく掃除をすることができた。今後も新年度の早い時期に実施したい。	A	A	A	・短時間の清掃を効率よく行うために、清掃区域について見直し、工夫に努める。（場所、クラス割、職員の監督割等） ・健康と安全に関する生徒への指導、職員の対処法（アレルギー、AED取扱い等）についての研修を行う。	A	学校生活アンケートをもとに面談を丁寧に行い、生徒に寄り添った支援を継続してほしい。
		健康診断等を通して生徒の健康状態を把握し、個別指導・支援に繋げる。		A					
		生徒の衛生面、安全面の管理の徹底、美化委員会を中心に美化コンクールの実施、道具の整備にあたる。		B					
	教育相談・特別支援教育の充実を図る。	学校生活アンケートや面談週間の実施により、いじめ等の早期対応に努める。	・学校生活アンケートの実施により、生徒個々の心身の状態を把握できた。課題がある生徒については、面談週間、教育相談委員会等で、職員間で共有し、対応の参考にすることができた。	A	A		・教育相談委員会の内容の充実に努める。 学校生活アンケートや面談週間を活用し、職員の共通認識のもと、課題を抱えた生徒の把握、課題解決に努める。 ・今後も、合理的配慮に関する職員研修等を行い、全職員の意識の向上を図る。		
		講演会や保健だよりの発信により、他者との関わりやストレス対処法についての教育を行う。		A					
		合理的配慮が必要な生徒に関しての研修会等を行い、職員間の共通理解を図り、支援策を検討する。		A					
進路指導課	進路意識の向上	進路学習や進路ガイダンスを充実・発展させ、主体的に進路について考えさせる。	PTA進路研修会後の保護者アンケートでは参加者の満足度は高かったが、専門性のバランスを考えた訪問先選定と参加人数の増加が今後の課題として残った。	A	B	B	3年生に対し自己分析のために新たな手段を講じ、成果があった。また、ミスマッチを減らすため就職希望者は複数社職場見学をし進路決定をした。本校らしいポートフォリオを活用した進路指導と、早期でのキャリア教育の充実が課題として残る。	B	学力を身につけ、進路の可能性をさらに広げてほしい。
		キャリアパスポートの活用を通して、自分の能力や適性を把握させる。		B					
		インターンシップ・職場見学・オープンキャンパス・大学訪問等を経験させる。		A					
	進路実現支援体制の構築	生徒一人ひとりに関して、学年・学科と共通認識を図り、きめ細かい進路指導を行う。	3年生4月の進路希望調査を基に適材適所できめ細かい面談を実施した。また進学希望者の選抜方法に合わせて適者で指導を行った。	A	A		本年度は学校型選抜指定校以外の選抜方法に挑んだ生徒が増えた。進路の可能性を広げるためには、基礎学力だけでなく探究力プレゼン力を付けることが必須である。教務と連携し学校全体で共通認識を図り生徒を育成したい。		
		各学科と連携し、さらに補強すべき力の育成を提案するとともに、進路先開拓を行う。		A					
		朝学の実施、基礎学力テストの事前事後指導を通して、学力向上と進路実現を図る。		B					
広報情報課	教職員・生徒を対象としたIT関連知識・技術について習得・推進する。	生徒に対して有益な情報を、様々なネットワーク機器を活用して伝えとともに、職員の指導技術の向上に努める。	入学後すぐに新入生アンケートを実施し、受検校決定に関する理由等を検証しながら、今年度の広報活動に活かすことができた。	B	A	A	ICTを活用した様々なネットワーク機器を活用することで、授業改善にも貢献し、わかりやすく、学習意欲の向上に繋がった。今年度は学校ホームページを大きくリニューアルすることで、生徒・保護者の多様なニーズに十分対応し、本校の魅力ある各学科の特色をPRすることができた。	A	SNSや学校ホームページをさらに活用して取組を発信する とよい。体験入学の間口を広げ、筑水高校の興味を持たせてはどうか。
		本校の全職員で学校ホームページ等を活用し、積極的に外部に情報発信ができるようにする。		A					
		学校ホームページにおいて、できる限り新しい情報を提供していく。		A					
	志願者を増やし定員を確保するため、地域を中心に幅広い広報活動に努める。	中学校訪問に関する企画・運営を行う。	本校での体験入学後に、「体験入学に参加しようと思ったきっかけ」等から中学生の現状を把握しながら、生徒募集に繋がった。	B	A		中学校訪問、体験入学・第8学区中学生進路相談事業等を通して、各学科が取り組む「魅力ある授業・実習」を伝えることができた。また、今年度は第8学区中学生進路相談事業の事務局を担当し、各学校と連携しながら進路事業を成功させた。		
		体験入学・親子相談会・進路相談事業に関する企画、運営を行う。		A					
		見やすくわかりやすい学校ホームページや学校案内パンフレットを心掛ける。		A					

様式3

図書研修課	「分かる授業」の推進・実践への取組及び職員の資質向上を図る職員研修会の実施	授業アンケートを実施し、その結果を分析して授業改善に取り組む。	年2回、生徒による授業アンケートを実施し、振り返りを行った。各学科・教科で課題改善に向けた取組を行っていた。2回目のアンケートでは一定の成果が見られた。	B	B	B	年2回の生徒による授業アンケートに関しては、やや形骸化しているような印象も見受けられる。生徒に対して実施する目的を明確に示すとともに、質問項目の精査や調査方法等の再検討が必要であると考え。	B	生徒の状況を把握して今後も支援をしてほしい。
		積極的な授業参観を促し、互いの授業力を高め合う契機にする。		B					
		生徒の実態に即した校内研修の企画・立案をする。		A					
	図書の充実・図書館の利用向上及び図書委員会活動の活発化	生徒・教員のニーズを把握し、蔵書の充実を図る。	1学期にブックハンティングを行い、実際に生徒に選書をしてもらった。また、司書の先生を中心に読書週間や季節ごとのイベント等を実施し、利用者の増加につなげることができた。	B	A				
		図書館利用のマナーアップを図り、利用しやすい図書館を目指す。		A					
		委員会会議の定例化を図り、委員会活動の定着と周知に努める。		A					
第1学年	基礎学力の定着	朝学の時間の定着と、各教科担当者との情報共有および連携を図る。	朝学の定着は概ね図れた。家庭との連絡調整においても、各担任を中心に細やかな対応が図られた。その他、授業以外の学校生活においても継続した取り組みが行えた。	A	A	A	生徒自身が向上心を持ち、目標を見失うことなく生活を送ることができた。年度終盤に遅刻や学習意欲の低下、服装の乱れは多少見られたものの大半の生徒は安定した学校生活を継続できた。次年度も状態を維持しながら、更なる向上心と社会人に向けた人格形成を意識した指導を行う。	A	生徒の学校生活が充実していると感じる。社会人としての知識や技術をしっかりと身につけさせてほしい。
		家庭との連携と、細やかな情報共有を図る。		A					
		清掃や学校行事等を通し、個人の成長と集団規範の育成を図る。		B					
	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚	遅刻・欠席について家庭との情報共有および連携を図る。	学年全体を通し、遅刻・欠席は少なく一部の生徒を除き安定した登校となった。また、部活動加入率も高く充実した学校成果を送る生徒も多く見られた。	A	A				
		校則や規範を重んじ、安定した学校生活環境づくりを図る。		B					
		部活動加入率を上げ、学校行事や生徒会活動等を通し帰属意識を高める。		A					
第2学年	基礎学力の定着	教科担任会等により、情報の共有及び指導の連携を図る。	学年団と教科担任とで協力し、成績不振者に対して補充指導を効果的に行うことができた。また、面談等で各家庭と情報を共有し、連携の取れた指導につなげることができた。	B	A	A	次年度は基礎的な学力だけでなく、個々の適性や専門性に応じて、学習指導と進路指導を関連づけて行うことが必要であると考え。また、進路希望に関して、生徒・家庭・学校の三者でできるだけ早期に共通認識を図りたい。	A	授業や学校行事などを通して今後も学校生活を充実させてほしい。
		保護者への連絡や面談を行い、情報の共有及び指導の連携を図る。		A					
		考査前に学年による学習会を行い、個々に応じた指導を充実させる。		A					
	基本的な生活習慣の確立と自律心の育成	出席状況に関して、家庭との情報共有及び指導の連携を図る。	修学旅行では居残り生徒が一人も出ず、全員が積極的に参加し、学年の連帯感を高めることができた。また、体育祭等を体験し、リーダーとして主体的に行事に係わりようとする生徒が増えた。	A	A				
		体育祭や修学旅行の指導を充実し、帰属意識や連帯感を高める。		A					
		生徒会や農業クラブ活動への積極的参加を促し、リーダーを育成する。		B					

様式3

第3学年	生徒の進路希望の実現	個人面談や三者面談を丁寧に行い、希望進路を決定させる。	生徒の進路希望に関してはおよその生徒が第1希望への進路が実現している。また、総合型選抜での合格者も出たので、今後も挑戦させたい。	B	A	A	早期に自己分析する機会を何度も設けたり、企業見学の回数を設定したりと丁寧に指導ができたのは非常に効果的であると感じた。また、小論文指導に関して、進路指導課を中心に体系的に指導できたのも良かった。ただし、SPI対策に対しては、不十分に感じ、生徒もそれが原因で1回目の就職試験が不採用になったケースもあったため、今後はその対策が必要。	A	進路が全員決定していることや、その結果がき資格取得などできちんと表れている。継続を期待している。
		早い段階から自己の進路について考え、準備ができるように努める。		A					
		定期的に学年集会等を行い、進路についての意識を高める。		A					
	成人として、社会人としての自覚と責任感を持たせる。	体育祭等の学校行事において、主体的に取り組む姿勢を培う。	3年間の集大成としての体育祭は、早くからリーダーとしての自覚を意識させた結果、生徒の成長が見られる非常にいい行事となった。しかし、その後の意識の継続が難しかったので改善したい。	A	B				
		生徒会・農業クラブ・部活動で、リーダーとしての自覚を持たせ、積極的に取り組む姿勢を培う。		B					
		挨拶や気遣い、時間の守り方など、社会人基礎力を高める。		B					
農務部	授業内容の充実及び農業クラブ活動の活性化	資格取得の合格率90%を目指し、授業内容の充実を図る。	電子図書の導入に対して、生徒へのアンケート等を実施したところ、分かりやすいとの評価があった。また、全国農業クラブ全国大会基準の改定に伴い、ICTを活用し、より詳しい内容の教科指導を行いたい。	B	B	B	農業3学科ともにICTを活用した学習が効果的に実施できた。全国農業クラブの実施基準の改定にともない、電子図書（農業版）を利用し、農業鑑定競技大会では大きな成果をあげることができた。次年度は、農業鑑定競技だけではなく、意見発表大会、プロジェクト発表大会で上位入賞を目標とし、教科指導の充実を図る。	B	地域イベントや連携した取組に参加しており、生徒にとってよい経験につながっている。
		ICT、オンライン等を活用し、先端農業の学習形態に取り組む。		A					
		農業クラブにおける上位大会への出場を目指し、教科指導の徹底を図る。		B					
	農業関連産業並びに関連機関との連携	職員研修等を積極的に行い、授業内容のレベルアップを図る。	社会人講師招聘授業等を活用し、生徒の興味・関心を引き出すとともに、専門性の知識と教養を学ぶ機会を設け、個々の進路に繋げていきたい。	B	A				
		地域企業や農業大学校等の関係機関と更なる連携を図る。		A					
		地域のまつりなど各種イベントに積極的に参加し、本校の魅力を外部に伝える。		A					
園芸技術科	学習環境を整え、基礎学力の定着を図り、社会的自立の基盤となる確かな学力の育成を目指す。	毎時間のノート及び課題レポートの提出と記述内容の指導を徹底し、表現する力をつける。	専門教科の記録において実習内容の観察、記録の工夫を徹底した。次年度も、ICTの活用を継続し、農業分野の知識及び技術を身につけさせ、将来の進路に繋げる。	B	B	B	総合実習や課題研究において探究学習が社会を切り拓く力に繋がっていくことを理解させ、農業における身近な課題に取り組んでいくようにする。さらにICTを活用した学習も取り組んでいくようにする。	B	スマート農業など、最新の知見を取り入れた内容を今後も期待している。
		実習ノート及びレポートの書き方指導を行い、自発的に取り組む力を育成する。		B					
		生徒の学習意欲を引き出す教材の作成・工夫、ICTの活動等をとおして、具体的な授業を展開する。		B					
	専門知識と技能を身につけさせるとともに勤労観、職業観、コミュニケーション力を育成し、進路実現を目指す。	社会人招聘事業・現場実習等を実施し、進路目標の充実を図る。	校内外の活動として多くの販売会への参加や、生産物を地域に情報発信することで、生徒たちの専門的知識や技術の向上を図ることができた。	A	A				
		実験・実習を通して準備・実施・片付けまでの一連の流れを指導し、安全教育、危機管理能力を身に付けさせる。		A					
		進路や面接指導などを意識した専門教科指導を充実し、進路意識の高揚を図る。		A					

様式3

食品流通科	「学校のパン屋さん」を学科の柱となる活動に進化する。	毎週水曜日課題研究での「学校のパン屋さん」を充実させる。	生徒の意欲・関心も高く、校内での認知度も上がった。また、新入生の反応も良く生徒自身が学校PRの話題としている。また興味を持った生徒がパン関係に進んだ。	A	A	A	広報活動に結び付ける事がまだ不十分である。職員全員がPR活動に「学校のパン屋さん」を利用する意識が必要である。	A	地域と連携した取組に好感が持てる。今あるブランド品も地域でD好評であり、生徒に自信を持たせてもらいたい。	
		取り組みを学科宣伝ツールとして進化させる。		B						
		就職・進学に結び付く活動に発展させる。		A						
	入学定員を確保するための広報活動を行う	中学生・保護者が見たくなる情報発信形態への更新	新聞やテレビを活用したPR活動が出来た。中学校側も食流科がパンに力を入れている事が認知され始めた。	B	A					
		メディアを活用した広報活動を行う。		A						
		中学校の先生が分かりやすく、説明しやすい学習活動を行う。		A						
造園デザイン科	学習意欲の向上に努め、学力の定着を図る。	座学・実習を問わず記録時間を設定し、書く習慣を身に付けさせる。	記録時間の確保を行うことで、記録をとる習慣を身に着けることができた。進路意識を早期に意識付けるため各企業と連携し進路に繋げることができた。	B	B	B	専門教科の授業を通して、専門的知識・技術を身に着けるとともに専門職に対する進路意識が身に着けることができる授業展開に進めていく。また、課題解決に向け主体的・対話的深い学びを専門教科を通して身に着けることができる取り組みを行う。	B	造園業界を担う人事の育成を望む。	
		進路実現に向けて早期の進路指導を推進する。		A						
		教員の専門研修の機会を設定し、資質と技術の向上に努める。		B						
	短大・地域・企業との連携推進を図り、専門力を高められる技術指導に努める。	校外実習でのボランティア精神の高揚に努め、専門力を向上することができる学習環境を整える。	校外実習や販売実習を行うことで、ボランティア精神および、専門力向上に繋げることができた。地域行事等に参加し、展示品等の制作で専門的知識・技術の向上を図ることができた。	A	A					ICT機器を取り入れた先進技術の授業を取り入れ、最先端の知識・技術を学ぶことで、専門職に対する興味・関心を高める取り組みを進めていく。地域行事等の参加を通して、基本的知識・技術の定着を図る。
		現場実習及び就職先企業の新規開拓を実施し、進路実現につながる連携強化を図る。		A						
		地域行事等に積極的に参加できるように学習環境を整える。		A						
社会福祉科	基本的な生活習慣や社会性の確立を図る。	挨拶、時間厳守、礼儀作法、服装などのマナーアップ指導を徹底する。	・定期的な服装、頭髪、身だしなみの等の検査を行うことで、対外的な実習に臨む姿勢の理解を保護者を含め行った。 ・学科行事などの広報活動を積極的にに行った。	B	A	B	指導の過程であるが、服装や礼儀などを整えることに対する意識が変化した。介護実習などの体験的な学習の学びが生かされ、人との関わりの大切さを学ぶことができた。	B	全員の資格取得が達成されるなど、素晴らしい成果が出ている。	
		学校行事や地域交流活動、介護実習等の学習体験を通し、自律心、社会性、専門性を育成する。		A						
	基礎学力の向上と専門性の定着を図り、福祉資格取得と希望進路の実現を目指す。	専門的知識・技術の習得と学びを生かした学習活動が実践できる環境づくりを行い、表現力や問題解決能力、言語的能力などを身に付けさせる。	・クロームブック等の活用など学習教材や実習時間の見直しを行った。また、授業の中で自らの考えや意見を発表する機会を多く設けた。	B	B					
		資格取得の重要性を理解させ、国家資格取得への意識向上を図る。		B						
	食物調理科	食物調理科の取り組みや魅力を積極的に発信する。	ホームページやInstagramを活用して情報を発信する。	計画的にイベント、コンクール参加ができた。コンクールに向けた授業も実施できた。	B					B
地元企業と連携した取り組みや地元イベントに積極的に参加する。				A						
料理コンクールの入賞・受賞を目指して多くのコンクールへ応募する。				A						
専門的な知識と技術の定着を図り、資格取得や検定の合格を目指す。		理論と実習・実技での学びが結びつくように指導する。	実習に合わせて理論の授業を行うことで生徒の理解を深めることができた。食物調理技術検定において全員合格できた。	B	B	今年は技術検定を全員合格することができたことがよかった点である。指導方法に関しては、現状に満足することなく目の前の生徒に合わせて改善、更新していくことが必要と感じる。制出物の徹底は今後も継続して根気よく取り組ませたい。				
		ノートやレポート等への記録を徹底するように指導する。		A						
		個別指導・支援を細やかに行う。		A						

様式3

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・新たな時代に対応した農業・家庭・福祉のスペシャリストの基礎をしっかりと身につかせつつ、ワンヘルス教育を踏まえながら将来に向けた自らのあり方や生き方を考えさせていく。
- ・ICT機器を活用した学習方法の多様化を図るとともに職員研修などを通して資質向上や授業の工夫・改善を進める。
- ・3年間のキャリア教育を通して、生徒自身が自らに必要な力を獲得し、自身の進路ビジョンを描いて実現させる。
- ・他者と協働して思考し判断していくことからコミュニケーション力を高めるとともに、自身の価値に気づき、他者を思いやる豊かな心を育成する。
- ・5学科の特徴をワンヘルス教育でつなぎながら地域や中学生及び保護者に本校の魅力を発信し、本校を志望する受験者を多く確保する。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
特になし	